

瑠璃色が可愛い
ルリビタキ

背中中のルリ色と脇の黄色が美しいルリビタキは、秋が過ぎ初冬のころから緑化センターでもその姿が見られるようになります。

不思議なことに、今年(平成16年)の冬は、雌雄がお互いに争う様子もなく同じ方向に移動しながら餌を捜しているのが見られました。

緑化センターには毎年5~6羽が来ていますが、本来それぞれテリトリーを持っていて、ひどい境界争いはしないものの、お互いに近づかない習性にもかかわらず、今年はこのような行動を何度か見かけ、今年の寒波がなにか影響しているのかなと考えています。



ルリビタキ ヒタキ科

スズメぐらいの大きさ。雄は背色がルリ色(青色)で腹が白色、脇に黄橙色があって美しい。

ヒタキ類共通のつぶらな瞳が可愛く好感を持たれる小鳥です。枝に止まる時はスズメのように低い姿勢で止まる。

夏期に北海道及び本州中部以北の針葉樹林で繁殖し、冬期は低地や暖地に移動する。

緑化センターには初冬に姿を見せるようになる。低木の地上に近い枝に止まって地上の小虫や種子を食べることが多い。

雌雄ともに一冬を過ごすテリトリーを定めて、その地域を巡回するので、姿を見失ってもしばらく待っているとまた戻ってくる。

この頃は、地鳴きで「クルルッ」か「ピッ、ピッ」と鳴いてその位置を予感させてくれる。

テリトリーの境界で争うことはなく、お互いに避けるように離れる。同類のジョウビタキに比べると性格的におとなしいのかもしれない。

文と写真 吉見良一氏

コーヒーで一息入れませんか
緑化センター レストハウス